

『「チャイナリスク」関連倒産 今年上半期55%増の62件』

東京商工リサーチが発表した2016年上半期(1~6月)の「チャイナリスク」関連倒産は62件で、前年同期比55.0%増だった。大幅に増加したのは、中国国内の人件費高騰に伴う製造単価の上昇などの「コスト高」や「中国景気減速」などが主因だ。同社は「16年は『チャイナリスク』関連倒産が前年以上の水準で推移する可能性が高い」とみている。

負債総額は489億8200万円で、前年同期比47.8%減だった。15年4月に江守グループホールディングス(福井県)が負債711億円抱え東京地裁に民事再生法の適用を申請したが、当期はこれに匹敵する大型倒産が発生せず、大幅に減少した。16年上半期の「チャイナリスク」関連倒産を要因別で見ると、「コスト高」が39件で最も多く、全体の6割強を占めている。以下、中国の在庫調整に伴う相場下落などの「価格競争」が12件、中国子会社の受注減などの「中国景気減速」が5件と続いている。産業別では、卸売業が35件でトップ。これに続くのは製造業で21件だった。業種別では「建築材料、鉱物・金属材料等卸売業」が5件発生した。資本金別では、「1000万円以上5000万円未満」が40件で最多、次いで「100万円以上500万円未満」が8件だった。

『時間を売る商売』

古代インドには、非常に長い時間単位「劫(こう)」があった。一劫は、四十里四方の立方体の岩石を天人が軽い羽衣で百年に一回払拭し、その岩石が磨滅してなくなるまでの時間である(一劫の定義には、他にもいくつかの説がある)。

これに比べれば、人生の長さは実に微々たる一瞬間であろう。人が時間を最も価値あるものと扱う理由である。例えば、電車であれば一般にスピードが高い程(つまり一定距離を走る時間が短い)価値があるとされる。だから、普通列車と特急列車とでは、特急の方が料金は高い。その差は時間節約代と言える。その他にも、一般道路と高速道路、海外等に行く場合の船舶と飛行機・・・と、例を挙げたら切りが無い。

そもそも、商品サービスのかなり多くが時間を売る(お客が報酬を払って自分の時間を節約出来る)ことで成り立っている。例えば、クリーニング業・家事代行業・宅配業・引越し業・弁当総菜販売業等の発生要因の一つは、報酬と時間の交換にあった。

今後も新商品の多くが、お客が時間を節約出来るような分野から生まれるのではなかろうか。したがって、現在のままでは時間が長くかかるような商品は衰退し、時間が節約出来る全く別の商品が登場する可能性があることに留意しなければならない。



<夏期休業のご案内>

平成28年8月11日(祝)から8月15日(月)まで休業させていただきます。
 次回の発信は8月22日(月)の1132号です。よろしくお願いたします。



21世紀を創造する中小企業のベストパートナー

〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目14番22号

葵総合経営センター

(葵総合税理士法人)

TEL : (052) 331-1768 FAX : (052) 332-5282

『Homepage』 <http://www.aoi-cms.com/> 『e-mail』 aoi@aoi-cms.com